

第 6 回 高校生東南アジア小論文

コンテスト

優秀賞

日本体育大学柏高等学校1年

石川 美桜さん

メコン川は「母なる川」と呼ばれるアジアの河川で、タイ北東部に位置するムン川はメコン川の支流である。住民にとってムン川は「何でもそろそろスーパーマーケットか、いつでもお金を引き出せる銀行のようなものだった」そうだ。タイの人々はメコン川の豊富な恵みを利用して、元々SDGsに近いシステムを作っていたと言える。豊富な水資源を元にした漁業や、川や気候をうまく活用した無施肥の省力農業が行われ、現金収入の元ともなっていた。

ところが近年の気候変動や、上流でのダム建設によって、このシステムが成り立たなくなってしまう。漁獲量は激減し、米や野菜も不作となった。

そもそもこのダム建設というのは、メコン川の水流にある中国やラオスが水力発電を目的として行われているものである。メコン川はチベット高原から流れ出し、中国、ラオス、ミャンマー、タイ、ベトナム、カンボジア

の6ヶ国を流れる国際河川である。メコン川に関わる自然環境や水資源を守る為には、タイだけでなくこの6ヶ国全体の問題としてとらえ協力していく必要がある。実は同じような構図の問題は日本や他国でも起きており、各国とも自分事として新たなSDGsがあちこちで模索されているようだ。

色々と調べ感じたのは、メコン川問題は国勢事情や政治、各国の思惑などが複雑に絡み合い非常に難しく、気候変動も止まらないであろう。ではどうするか。

まず国レベルの取り組みとしては、既に発足しているメコン川委員会の取り組みを充実させ、積極的に情勢発信や問題提起を行い、他国も協力して中国に粘り強く働きかけていく。地域レベルでは、米国が支援表明をした「メコン川下流域イニシアティブ」の中で提案された、ミシシッピ川との「姉妹川」のよ様な協力関係の構築を進める。例えば『世界河川地域生活連盟』のようなものを立ち上げ、

各国の地域住民同士で河川地域で生活苦に陥っている状態を改善できるような提案や支援ができるシステムを作る。また企業レベルでは、現況に応じた漁業や農業の技術ノウハウの提供や教育などを通じて、現地に暮らす人々が自分達で生活を立て直せるような支援を進める。例として、既にタイにおいてはイチゴ栽培で新たなSDGsの構築に貢献、成功している。また、日本には『外国人研修・技能実習制度』というすばらしいシステムもある。

既存のSDGsにとらわれず変化に対応した新たなSDGsを、国境を越えた人間レベルのやり取りで生み出していく事が不可欠で、それができる時代であることは、間違いなく大きなチャンスだったと私は思う。

参考資料

ホームページ

水管理システム近代化計画プロジェクト

<https://www.jica.go.jp>

ホームページ

メコン川、ムン川の情報、タイ人との関わり

<http://www.mekongowatch.org>

ホームページ

メコン川に起きている異変について

<https://globe.asahi.com>

ホームページ

「中国のダム操作で歴史的な干ばつ」

<https://globe.asahi.com>

ホームページ

なぜ？メコン川に異変、色が変化、水位低下

<https://www.nishinippon.co.jp>

ホームページ

「中国の巨大ダム群」がメコン川流域に…

第6回優秀賞作品  
石川 美桜さん (タイ部門)

<https://cocrrier.jp>

ホ ー ム ペ ー ジ

メ コ ン 川 に ダ ム は 必 要 か ?

<http://kaigan.civil.tohoku.ac.jp>